

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 看取り介護経験の無い職員や新人職員は、看取り介護に対しての不安を持っている。	施設として作成している「看取り介護に関する指針」に基づき、医療依存度が高い認知症利用者にも対応できるよう看護師を中心に3ヶ月に1度、勉強会を行う。	・相談員を中心に本人や家族の意向を掴み、主治医、施設内の多職種(介護士、看護師、栄養士、リハビリ職員)と連携し、話し合いを重ね支援する。 ・内部、外部研修へ参加しレベルアップしていく。	12ヶ月
2	23 24	○思いや意向・これまでの暮らしの把握 認知症に対する理解を深め、チーム全体でレベルアップしていく。	お一人おひとりの生活歴を知り、それに合わせた対応が出来るように、自分のユニット内だけでなく、協力ユニット、栄養士、看護師などと連携していく。	・不安に感じることや、解らないことがあればそのままにせず、他の職員に質問する。 ・リーダーや担当者を中心に声を掛け合い、多職種にも相談しながらチームとしてレベルアップをする。	6ヶ月
3	25	○暮らしの現状の把握 全職員が、お一人おひとりの現状を把握できるように、引続きセンター方式シートを活用して、新人職員にも伝えていく。	生活リハビリを中心に、出来ることは継続し、ロコモシンドロームの予防のため、3ヶ月に1度ロコモチェックを行い個々の身体機能の低下に応じた、リハビリやレクリエーションなども取り入れて、楽しみながら体力の低下を防止していただく。	・月1回行っているモニタリングを、ケア会議などで共有し、お一人おひとりに合わせた役割をもっていたいただく。 ・24時間シートを活用し、統一した支援を行う。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。